

大学

企画課管理用 教 一 B 一 3

推進主体	学生センター教務課
責任者	学生センター所長

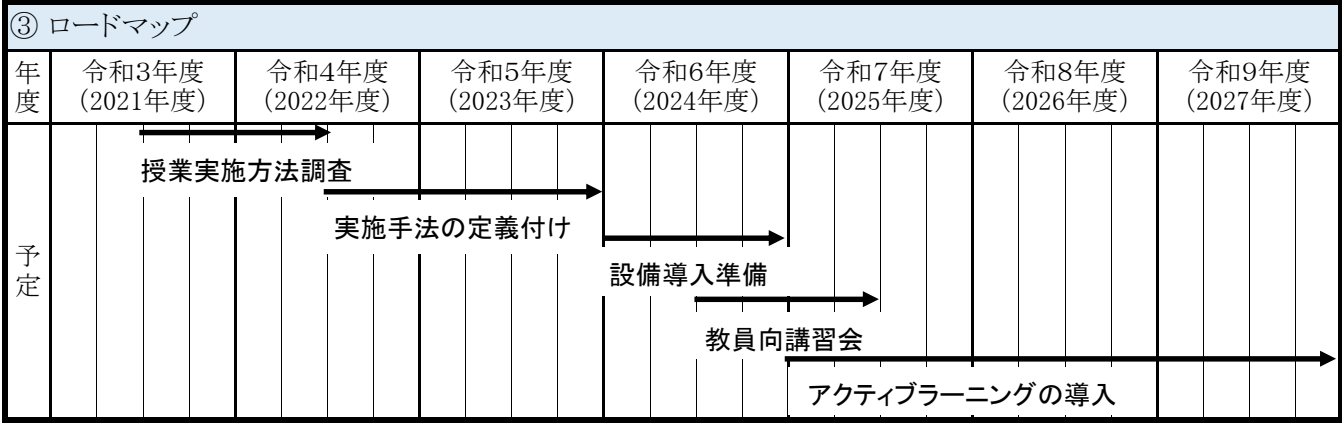
分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	一	B	③反転授業の導入などの新しい授業方法の展開(主体的な学修を促すアクティブラーニングの展開)	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

授業科目の特性に合わせた効果的な授業方式を選択することで、既存のカリキュラムの見直しを図る。その選択肢の一つとして、反転授業の導入などの新しい授業方法(主体的な学修を促すアクティブラーニング)を展開する。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

授業科目の特性に合わせたアクティブラーニングの導入に向けた議論を開始したうえで、必要な設備・手法の導入を検討し、授業の規模に応じた実現可能なアクティブラーニングの手法を全学的に導入する。



④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	アクティブラーニングを導入可能な余地がある科目がどの程度あるのかを把握するために、現状の授業実施方法の調査を実施する。調査結果に基づき、各授業の形態に合わせてどのような方法でアクティブラーニングの導入が可能かを検討するとともに、本学におけるアクティブラーニングの位置づけを定義する。	令和4年度については、多数の科目が遠隔授業を継続し、通常時の授業実施方法を調査することが困難であったため、計画を1年繰り下げることにした。  ★進捗段階:「計画立案」
令和5年度 (2023年度)	令和5年度の遠隔授業は必要最小限とすることを想定しており、実際の授業実施形態に合わせて、将来的な授業実施方法の調査を実施する。調査結果に基づき、各授業の形態に合わせてどのような方法でアクティブラーニングの導入が可能かを検討するとともに、本学におけるアクティブラーニングの位置づけを定義する。	12月に現状の授業実施方法についての調査を行うとともに、アクティブラーニングの導入に向けて必要な設備のアンケートを実施した。 既にアクティブラーニングを導入している授業や取り入れたい手法等の回答を基に、本学におけるアクティブラーニングの導入状況および導入に際しての要望を整理し、位置づけを定義した。  ★進捗段階:「計画立案」
令和6年度 (2024年度)	前年度のアンケートに基づき、アクティブラーニングを未実施の授業について、アクティブラーニング導入の要望がある科目、それに伴い必要な設備を洗い出し、設備導入に向けた予算要求を行う。 また、アクティブラーニング導入に向けた講習会を実施する。	
令和7年度 (2025年度)		
令和8年度 (2026年度)		
令和9年度 (2027年度)		